

港明中学校 学校経営の全体構想 令和4年度に向けて

学校は、生徒にとって安心かつ安全な生活の場であり、学ぶ楽しさと生きる喜びを味わうとともに、夢や目標をもってともに成長することができる場でなければなりません。生徒一人一人は異なった能力や特長をもち、多くの経験を積み重ねることでそれらの伸長が図られ、より高い人格や個性の形成がなされます。一方、社会情勢の急速かつ著しい変化のなか、自ら考え、判断し、自らの力で未来を切り拓いていくことができる力の礎を身に付けることが求められます。そこで、生徒の主体的な活動を中心とした学びの場を多く設定・提供し、生徒が失敗を恐れず目標に向かって努力する過程で自ら課題を解決し、成就感を味わうことを通して、一人一人の能力や特長を発揮できるように努めます。また、生徒一人一人、個の充実に基づいた、集団としての一層の充実を図ります。

良好な集団を持続・発展的に形成する中で、自他を尊重し、安心して生き生きと学び、一人一人が目標に向かって成長する生徒の姿が見られる学校、それが港明中学校がめざすところです。



令和4年度

港明中学校 グランドデザイン

【教育目標】

健全な心身をもち、心理と正義を希求し、自主と勤労を大切にする、人間性豊かな社会人の育成を目指す。

<生徒像>

明るく、心身のたくましい人
正しく考え、真実を求める人
情操豊かで、思いやりのある人

<校訓>

真実 健全 思いやり

学校努力点

**ますます学び
まっすぐ伸びる**

- 自ら考え判断して歩む
- 自他を尊重し協働する
- 喜び・感動を共有する

【学習指導】分かる、できる、楽しい

生徒が夢中になる授業
基礎・基本の定着・ICTの活用
「~できる」を実感できる授業
特別支援教育の充実

【生徒指導】自主・自律、自覚意識の向上

心の成長、健康の保持・増進
教育相談の充実…SCとの連携、
学校生活アンケートの活用

学校行事、学級活動・
生徒会活動の持続・発展
体験学習の充実

【特活・総合】

学校と地域、小中連携
授業公開、情報発信
学校評価の実施と効果的な活用
アドバイザースタッフとの協働

道徳教育の充実
「考え、議論する道徳」の推進
実際の場面をとらえた指導

【道徳】豊かな人間関係の構築

開かれた学校

特色ある学校

一人一人が持つオールが一隻の船を漸進させる

【学習指導】

- **1時間の授業の中での「生徒の学び」**を大切にし、全ての生徒が**夢中になって学ぶ授業**をめざします。
- 生徒の**学習意欲の高揚に基づいた学習習慣**の定着を図り、**基礎・基本**の力を定着をめざします。
- **ICT機器（タブレットPC）**を効果的に活用し、学び合いを大切にしながらも、**個に応じた指導・支援を促進**します。
- 授業における**学習の目標**に基づいて、生徒が**仲間の考えを聞いたり、自分の考えを仲間に伝えたり**しながら**課題解決に向けて主体的・対話的に学び合う**中で、生徒一人一人が**個として成長**することができる学校をめざします。

【生徒指導】

- 生徒の気持ちに寄り添う生徒理解を基本に、生徒自らが自己を見つめ、**互いを尊重し、自主的・自律的に**自らの向上に努力するとともに、生徒が**互いの努力とその結果を認め合う**中で、**ともに成長**することができる学校をめざします。
- 自他の生命や安全を守るために必要なことを**主体的に考える場面**を設定し、生徒一人一人が**自ら判断し、自律心ある言動をとることができる**学校をめざします。

【特活指導】

- 学校行事や生徒会主催の活動等に**主体的に取り組む**中で、**日々の学習指導、生徒指導で身に付けたことを生かして**活動に創意工夫し、生徒が**互いに高め合い、よりよい学校づくり**をしていこうとすることができる学校をめざします。

【保護者・地域等との連携】

- 「保護者・地域・関係諸機関に支えられてこそ充実した教育を行える」との考えに立ち、**三者との連携**を密にして信頼を得られるよう努めます。
- 生徒指導においては、生徒がより安心して学校生活を送ることができるようにするために、また、学習指導においては、英語教育、日本語指導・多文化共生教育等の一層の充実を図るために、**小中連携**を適切に進めます。

<教職員で共有する基本的な考え>

「チーム港明中」として取り組める教職員集団（教職員の協働体制の確立）

めざす生徒像の実現のために、教職員同士が思いや考えを伝え合い、「生徒のために何をしたいか・何をすべきか」の視点で議論し協働できる、良好な人間関係・職場環境づくり

- | | | |
|----------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| ○ 学習・生徒指導に関する情報の共通理解 | ○ 教職員自身が自己肯定感をもてる温かい雰囲気づくり | ○ 個々の専門性の充実に基づく、チームでの力量向上 |
| ○ 知識・指導技術に関する情報の共有 | ○ 課題を共有し、チームで支え合う学年・学校集団づくり | ○ 一人一人のリスクマネジメントと安全配慮の意識の一層の向上 |

「ますます学び まっすぐ伸びる」を実現するためのキーワード

「なぜ」を問い、他者の意見を聞いて、自ら考え、行動する

1 学習指導について

全ての生徒が夢中になって学ぶ（ますます学ぶ）授業を通して、一人一人が個として成長する（まっすぐ伸びる）ことができる学校をめざす。

(1) 授業デザイン(授業改善)の追究

－授業での生徒の学びを保障し、全ての生徒が夢中になって学ぶ授業づくり

※新学習指導要領の視点での授業改善

学習目標の提示（「何ができるようになるか」）、授業形態の工夫（主体的で対話的な授業展開）

－生徒が仲間の意見を聞いたり、自分の考えを仲間に伝えたりしながら、主体的・対話的に学び合う、「分かった!」「できた!」を創出する指導の工夫

－「深い学び」を実現した生徒像(ねらい)からのバックワードデザインによる授業づくり

－新学習指導要領完全実施初年度としての指導内容の精選、小学校学習内容との接続

－公開授業・研究授業等による授業研究の推進（授業公開「授業デザイン」、相互参観）

(2) 基礎的・基本的な学力の充実

－授業での知識・技能の活用を通して、基礎的・基本的な学力の充実を図る。同時に、授業を通して高まった学習意欲に基づいて学習習慣を定着させ、生徒の自主的な学習に根ざした基礎的・基本的な学力の充実を目指す。「家庭で復習をしたくなる授業」の創造

(3) ICT機器(タブレットPC)の有効活用

－生徒に配付された学習用タブレットを有効に活用して、個々の学習状況や定着度にに応じて、自ら学びを進め、学力を補完・発展できるような指導の充実

(4) 多文化共生教育の充実

－日本語指導の充実、外国籍生徒・日本語指導が必要な生徒への指導の充実、外国籍生徒の自己肯定感につながる学習活動、多文化共生を意識化させる指導・進路指導の充実、講演会の実施

(5) 特別支援教育の充実

－新学習指導要領に基づいた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と指導実践、通常学級での特別支援教育の視点での授業デザイン

(6) **評価・評定の充実**

－評価規準・評定要素の見直しと充実、**指導と評価の一体化**（評価場面の質的・量的確保、適切な**評価基準の設定**）、**新学習指導要領**における評価の在り方の理解と準備

(7) **道徳教育の充実**：「特別の教科 道徳」**考え、議論する道徳**

－主体的に考え、多様な感じ方・考え方と出会い、交流する。多面的に考える。道徳的な判断力・心情・道徳的実践意欲・道徳的態度を養う。全校道徳、リレー道徳・ローテーション道徳

(8) 道徳、学級活動、総合的な学習の時間の**年間を見通した計画立案**による指導時間数の確保

2 生徒指導について

規範意識・自己有用感の育成

「この子我が子なりせば…」の意識を基盤に、生徒の気持ちに寄り添った**生徒理解**に努め、生徒自らが自己を見つめ、**互いを尊重し、自主的・自律的に**自らの向上に努力する（ますます学ぶ）とともに、生徒が**互いの努力とその結果を認め合う**中で、**ともに成長する**（まっすぐ伸びる）ことができる学校をめざす。特に、学級経営、教育相談、進路指導等の充実を図るとともに、体育大会や文化祭、稲武野外学習、修学旅行等の行事、部活動等の諸活動における指導・支援を通して、**生徒の個性尊重、能力伸長、自己実現**をめざす。また、スクールカウンセラー、母語学習協力員、発達障害対応支援員、子ども応援委員会等との**連携を一層強化**するとともに、学校生活アンケート（WEBQU）等の活用を通して、**生徒の内面指導の充実と実効的な支援**を推進する。

自ら考え行動できる心と態度の育成

なぜそうするのかを考え（ますます学び）、一つ一つの事象にある**目的や意味を理解して行動できる**（まっすぐ伸びる）生徒の育成を目指す。

- ・ロールプレイなど

(1) **基本的生活習慣の確立と規範意識の向上**

－あいさつ、時間・ルール遵守、言葉遣い、礼儀、公衆道徳

⇒「なぜそうするのか」を理解し、適時に行動することができる**思考・判断・態度**

(2) **健全育成、健康・安全指導の充実**

－**新型コロナウイルス感染予防**、非行化防止への対応、思春期セミナー、救命救急実技 等

(3) **学級・学年の枠を超えた生徒指導体制**

－生活指導部会の充実、教師間・学年間の生徒指導の方策に対する相互理解・共通理解

(4) **教育環境の整備**

－情操教育と環境整備（進んでごみを拾う心の育成、掲示物の充実などによる居心地のよい学校づくり、安全点検の充実 等）

(5) **子どもの居場所づくりの視点に立った心の教育・教育相談の充実**

－スクールカウンセラーなどとの連携、学校生活アンケート（hyper-QU）の活用、自殺予防教育、「心のパンフレット」を活用したストレス・マネジメント能力の育成、ケース会議の活用

(6) **外部機関との効果的な連携**

－子ども応援委員会、子ども適応相談センター、ハートフレンドなごや、児童相談所、区役所（民生子ども課）、警察署、中部ろうさい病院 等

(7) **防災・防犯意識への高揚**

－より実効的な避難訓練の実施（大津波警報発令時想定も含む）、薬物乱用防止教室・**サイバー犯罪防止教室**等の実施

(8) **ロールプレイなどによる体感型指導**

3 特活指導について

生徒が、学校行事や生徒会主催の活動等に主体的に取り組む（ますます学ぶ）過程で、日々の教育活動（学習・生活）を通して身に付けたことを活用して行う創意工夫等により、互いに高め合い、感動や成就感を共有することができる。よりよい学校づくりをめざし、生徒一人一人が成長する（まっすぐ伸びる）学校をめざす。

(1) 生徒自ら企画・運営し実践する場の設定

－生徒会主催行事、文化祭、3年生を送る会、各学年行事等への主体的な参加、失敗から学ぶ場の設定

(2) 生徒会活動の活性化

－ボランティア活動、奉仕活動、キャンペーン活動等、生徒発案による活動の充実を通じた自治意識の高揚

(3) 身に付けた力を、学校生活の向上に生かそうとする態度の育成

－マスゲーム、合唱コンクール等への取り組みを通じた、より良い集団形成を目指す個の在り方、より良い個の集合体としての集団の在り方を考える意識の高揚、学習・日常生活への波及・還元

(4) 持続・発展可能な活動の在り方の探求

－生徒一人一人が生き生きと取り組み、成就感を得られる場の設定（その行事や活動を通して「どんな生徒を育てたいか」「そのために何をしたいか」－目指す生徒像実現に向けた行事の改善・精選）

※時間短縮、負担軽減のみを目的としない改善の在り方の検討

※アフターコロナを見据えた行事の在り方の検討

4 保護者・地域等について

学校は「保護者・地域・関係諸機関に支えられてこそ充実した教育を行える（＝ますます学び、まっすぐ伸びる）」との考えに立ち、地域に開かれた学校を目指し、地域の信頼を得ていく。また、地域や保護者からの声を適切に受け止めるとともに、学校の取り組みを積極的に情報発信していくことによって、更なる理解や協力を得る姿勢で臨む。また、教育活動の一層の充実を目的として、ブロック小学校との連携を積極的に進める。